

論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 学 術 ）	氏名	蔭谷 陽子
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
看護師の共感疲労を規定する要因に関する研究			
論文審査担当者			
主 査	教授	岩 永 誠	印
審査委員	教授	坂 田 桐 子	印
審査委員	教授	長 坂 格	印
審査委員			印
〔論文審査の要旨〕			
<p>看護職はヒューマンサービス業の一つで、情緒的・精神的疲労からバーンアウトしやすいことが指摘されている。バーンアウトの原因の一つに共感疲労がある。共感疲労とは、支援を必要とする対象者に共感的に関わることで生じる疲弊状態を指す。看護師が患者へ共感するあまり、深くかかわりすぎることで共感疲労を引き起こしていると考えられるため、本論文では、職業的アイデンティティ、職業コミットメント、完全主義、主観的義務感、セルフ・コントロールを取り上げ、これらの要因が患者への共感性及び過度な関与に及ぼす影響過程を明らかにすることを目的としている。</p> <p>本論文は、8章から構成されている。第1章では、共感性及び共感疲労に関するレビューをもとに、これらに関連すると考えられる要因を抽出し、共感性・共感疲労への影響過程に関する仮説モデルを提唱した。第2章では、職業的アイデンティティと職業コミットメントが共感性、患者への過度な関与、共感疲労に及ぼす影響について検討している。看護師において、職業的アイデンティティと職業コミットメントは共感性や患者への過度な関与を媒介して、共感疲労を高めることを明らかにしている。第3章では、完全主義を取り上げ、完全主義が患者への過度な関与を促進させることで共感疲労を引き起こしていることを明らかにしている。第4章では、患者への共感性が過度な関与に及ぼす影響をセルフ・コントロールが緩和するという調整効果の検討を行った。その結果、調整効果は認められず、セルフ・コントロールは患者への過度な関与を促すという予想とは逆の結果が得られた。その原因を探るべく、第5章では、セルフ・コントロールの対象を患者と看護師自身に分けて検討した結果、共感性は患者のため、及び看護師自身のためのセルフ・コントロールを促すものの、患者のためのセルフ・コントロールは過度な関与を促進させ、看護師自身のためのセルフ・コントロールは抑制することを明らかにしている。第6章では、職業的アイデンティティと職業コミットメントは主観的義務感を促して患者のためのセルフ・コントロールを促進すること、また看護師のためのセルフコントロールに対して、職業的アイデンティティは促進するが、職業コミットメントは抑制することを明らかにしている。第7章では、患者のためのセルフ・コントロールは、職務満足感を高</p>			

めるとともに、患者への感度な関与を促進して共感疲労とストレス反応を高めること、また看護師自身のためのセルフ・コントロールが職務満足感を高めること、患者への過度な関与を抑制して、共感疲労とストレス反応を低下させることを明らかにしている。第8章では、6つの研究で得られた知見をもとに、共感性と共感疲労に及ぼす影響過程のモデルを提唱するとともに、看護師の共感疲労を予想・緩和するための提言を行なっている。

これまでの共感疲労に関する研究は質的研究が中心であり、共感性から患者への過度な関与、共感疲労に至る過程において、関連する要因の影響過程を明らかにされていない。本論文において、患者への過度な関与が共感疲労を引き起こす中核的な要因であること、患者のためのセルフ・コントロールが共感疲労を促進するものの、看護師自身のためのセルフ・コントロールは抑制することが明らかにしている点は、これまでにない新たな知見として高く評価できる。本研究の成果は、共感疲労の緩和や予防といった臨床的応用にもつながる研究であり、学術的意義は高く、独自性の高い研究といえる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。